

介護をテーマにした狛江市男女共同参画推進フォーラム(講演会)が21日(午後1時30分から市防災センター)で開かれる。当日の運営を担当する狛江市男女共同参画推進委員会委員長の西山偕子さん(74)に話を聞いた。

「男女共同参画というと固くてわかりにくいですが、性差や役割分担にとらわれず、だれもが自分らしい生き方を選択できる社会の実現をめざしています。狛江市男女共同参画推進委員会は、男女が自立した個人として互いの人権を尊重しつつ、あらゆる分野で男女共同参画ができる社会の実現を目的に、『狛江市男女共同参画推進計画』の推進などについて提言を行う組織です」

「私は民生・児童委員を平成10年頃から務めていました。その経験を活かして、21年に狛江市男女共同参画推進計画策定委員会に入り、25年に委員長になりました。現在推進している平成27年度から31年度までの推進計画では、暴力の根絶、ワーク・ライフ・バランスの推進、子育て・介護への支援の3点を重点テーマとして取り上げ、ストーカーやセクシュアル・ハラスメント、虐待などの人権侵害への対策、防災や地域活動の女性リーダー育成といったあらゆる分野への男女共同参画など新しい取り組みを加えました」

「委員は現在10人で、年間4回、委

性別によって役割を分担しない方が良いと思っています

員会を開きます。委員長としては、会議を楽しく進めるよう心がけ、全部の委員に必ず発言していただいています。また、毎年開催するフォーラムの企画や準備、年1回発行する情報紙の内容を検討するほか、情報紙に載せるインタビューを昨年からおこなっており、女性消防士と男性保育



狛江市男女共同参画推進委員会委員長

西山偕子さん

士を取り上げました。このほか、5年前から男女共同参画施策について共通の課題を持つ狛江、小金井、国立による共同研究会を設けており、フォーラムの開催や各市で開く市民交流会に出席します」

「今回のフォーラムは、お笑い福祉士として活躍する落語家の笑福亭学光さんが『笑って知ろう協力しあう介護のヒント』をテーマに落語を交えて自身の介護体験などを90分間話します。介護

は身近な問題なので、ぜひ参加してください」

「私自身は家族や親族のサポートがあった結婚後も仕事を続けてきましたが、性別によって役割を分担しないほうが良いと思っています。これからは、男性も家事や育児、介護などこれまで女性が担ってきたことに目を向け、そうした能力を身に付けてほしいと思います」

※フォーラムは事前予約制(定員先着100人)で入場無料。申し込みは12日(金)までに狛江市政策室協働調整担当へ直接または ☎3430-1111・FAX3430-6870・✉kyodot@city.komae.lg.jp。

西山偕子さんの横顔=栃木県藤岡町生まれ。地元の高校を経て東京家政大学を卒業。郷里の病院で栄養士として勤務した後、都内の会社に就職、狛江町(当時)に転居する。株式会社ニシヤマの現社長嘉則さんと昭和41年に結婚。3人の子を育てながら同社の経理を担当。平成7年に国際ソープチミスト東京-狛江に入会して地域活動に目覚める。10年頃から28年まで民生・児童委員。21年度に狛江市男女共同参画推進計画策定委員会委員になる。趣味は旅行、映画鑑賞。近年は夫婦ふたりで旅行するのが楽しみ。

大きな反響を呼んだ。

ビールの醸造を行っているのは、秋元賢社長の長男の慈一さん。東京農業大学で醸造学を学んだ慈一さんに、農大同級生で猪方の農家の小川憲一郎さんがホップの栽培で協力。農大の後輩で大手ビールメーカー勤



ビールの醸造

初の狛江産ビール 市内産ホップで醸造

狛江産としては初のクラフトビール(発泡酒)がこのほどできあがり、話題になっている。

ビールを醸造したのは、駒井町で全国の地酒などを販売している籠屋秋元酒店。昨年10月に発泡酒製造免許を取得、店舗横に建設した醸造所に置いた容量300ℓの金属製タンク5基と木製樽1基で11月から市内産などのホップを使って仕込みを行った。ビールは約3週間できあがり、12月に醸造所と同時に建設したレストランで試飲会を開催、訪れた人々から

老舗めぐり

◆62◆

(有)さとう写真スタジオ(中和泉5-1-22)は、スタジオ撮影と、学校などの出張撮影が専門で、同所に開業してから44年を数える。

創業者で社長の佐藤八郎さん(89)は、この道約65年の大ベテラン。佐藤さんは名古屋市の中津区に生まれ、戦争中は岐阜県各務原市の陸軍航空隊で整備の仕事に就き、戦後は名古屋の電機会社に就職した。その後、夜間高校に入学し、名古屋大学生物学研究所へ転職した。学校の写真クラブに入って友人に借りたカメラで修学旅行などを撮影して写真のおもしろさを知り、現像と焼き増しも経験した。卒業後は東京の写真短期大学に進学したが、撮



佐藤八郎さん(手前)と社員

務だった江上裕士さんが同店に転職し、醸造所で働いている。また、平成28年度には東京都第5回成長産業等設備投資特別支援助成の対象事業の認定を受けた。

慈一さんは24年に市内の農家と協力して狛江特産のエダマメを使った発泡酒「こまえ〜」を開発、狛江市観光協会推奨商品の第1号に認定された。ただ、「こまえ〜」は市外のメーカーに醸造を委託しており、より本格的なものづくりを実現したいとビール醸造の構想を温めてきた。慈一さんは「当店はかつて籠を製造していたので、酒の

学校やスタジオで大切な思い出を記録

思い出の写真スタジオ

影より基礎的な座学を優先する授業に疑問を感じ半年で退学した。昭和27年頃に世田谷区田代駅近くの写真館のカメラマンに採用された。その写真館はスタジオ写真に加え、世田谷区内などの学校写真を多く手がけており、佐藤さんは子どもの集合写真や行事の撮影、暗室作業などをマスターした。その後、4つの学校を担当、女優のスタジオ撮影なども行った。

29歳の時、高校時代の勤務先で同僚だった女性と結婚した。その頃は高価な大型、中型カメラを購入、休日は尾瀬などへ撮影旅行を行ったり、39年の東京オリンピックではマラソンの金メダリストのアベベ・ビキラと銅メダルの円谷幸吉を撮影したという。

48年に知り合いの中学の教師に会うため狛江へ来た時、狛江駅近くの不動産屋で、現在店舗がある土地が売り出されているのを見て、購入を即決、スタジオ付きの家を建て、有限会社として独立した。前の勤め先で担当していた学校に加え、狛江一中の仕事も行うようになった。当時は、都市化によって児

童や生徒が増え続けている頃で、学校行事は日程が重なることが多いため、翌年には社員を1人雇った。市内には写真館が少なく、新たな学校も開拓できたため、業績は順調に伸び、社員4人が在籍したこともある。七五三などのスタジオ撮影も順調に増え、成人の日は店に入りきれない晴れ着の若者で行列ができたことも度々あったという。

約10年前に狛江通りの拡張に伴い、店舗兼自宅を建て直し、スタジオ設備も一新した。デジタルカメラに加え、スマートフォンの普及で、最近はスタジオ写真の需要は減った。しかし、家族の貴重な思い出になる記念写真や、入学試験の受験票や履歴書、パスポートなど大切な書類に添付する写真は、専門家にきれいに撮影してほしいという人も多い。

現在、佐藤さんは業務の多くを社員3人に任せているが、スタジオで和装を撮影する時などは、美しく撮影できるコツやポーズを細かく社員にアドバイスしている。「担当する学校の先生に信頼され、仕事熱心な良い社員に恵まれたことが、長続きしている秘けつです」と話している。

(有)さとう写真スタジオ=☎3488-0234 営業時間=午前10時~午後6時 水曜休み

ファインダー見つめて約65年/44年前に狛江で開業



田中理事長(右)に米を手渡す高橋市長

川口地域から友好の米 フードバンク狛江に贈る

ふるさと友好都市として交流を行っている新潟県長岡市川口地域から贈られた魚沼産コシヒカリ120*が、食品ロス問題に取り組んでいるNPO法人フードバンク狛江にプレゼントされた。

12月19日(木)に市役所で贈呈式が行われ、高橋都彦市長から田中妙幸理事長に手渡され、「おいしいお米を支援を必要としている人に渡せるのがなにより」と喜んでいました。

この米は、10月22日の狛江市防災訓練で、狛江市民に炊き出しとして振る舞うため、川口地域の人たちが270*を集めた。しかし、衆議院議員選挙の影響で訓練が中止となったため、「友好の米」の有効活用について川口地域と協議した結果、狛江市民まつりの景品として使ったほか、フードバンク狛江に託すことにした。

イルミネーションは2月28日(木)まで毎日午後5時から11時まで点灯される。

高血圧、腎臓病テーマに 慈恵第三病院がセミナー

第82回東京慈恵会医科大学附属第三病院公開健康セミナーが13日(木)午後2時~3時30分に第三病院近接看護学科1階大講堂で催される。

「こうすれば心配いらない高血圧と腎臓病」をテーマに同病院腎臓・高血圧内科診療部長の宮崎陽一さんが講演する。

定員180人で参加無料。問い合わせ ☎3480-1151 慈恵医大第三病院管理課。



市役所市民ひろばのイルミネーション

販売に加えて、そうしたものづくりの原点を大切にしたいと思っています。麦芽は肥料化に向けて取り組んでおり、地産地消の輪を定着させ、ビール醸造をきっかけに狛江産の商品を育てていきたい」と夢を広げている。

市民ひろばのイルミ 2月末まで夜を彩る

狛江の冬の風物詩として親しまれている市役所前市民ひろばのケヤキのイルミネーションが今冬も実施され、市民を喜ばせている。

狛江市観光協会が実施しているもので、11月21日(木)には白井昇観光協会会長